科目名 ：	世界史Ｂ	単位数 ： 4 単位	必要スクーリング出席回数： 4 回
使用教科書 ：：新選世界史Ｂ （東京書籍）			
学習書 ・副読本 ：：なし			

	年間総数	１範囲	２範囲	３範囲
レポート [R]	12 枚	4 枚	4 枚	4 枚
スクーリング [S]	16 回	6 回	5 回	5 回
テスト [T]	2 回	○	×	○
その他 （課題・実習等）	試験の点数が低い場合、課題が課されることがあります。			

1 担当者からのメッセージ（学習方法等アドバイス）

この科目では世界の歴史について学びます。レポートは教科書の内容から特に重要なところを出題します。まずは教科書をしっかりと読み、それからレポートに取り組みましょう。スクーリングではレポートで扱う内容について理解できるよう講義を行います。必要スクーリング出席回数は4回です。また各範囲に行われるテストはレポートから出題されます。成績はレポート、スクーリング、テストから総合的に評価します。
世界の歴史を学ぶのは大変ですが、これからの社会を生きていく上でとても大切なことです。学習を進める上でわからないところや困ったことがあれば、担当者まで相談に来てください。

2 学習の到達目標

①学習を通して世界史への興味関心を高め、世界史を学ぶ意義に気づくことができる。
②歴史を学ぶ中で平和で民主的な社会の形成者としての自覚をもって考える態度を身につける。
③世界の歴史を、様々な要素と関連づけて、実証的、多角的、多面的、批判的に考察し、自分の考えを適切に表現できる。
④世界の歴史を学ぶための諸資料を効果的に歴史の探求に活用することができる。
⑤世界史の流れ、基本的な知識を身につけ、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解できる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b ：思考・判断・表現	c ：資料活用の技能	d ：知識・理解
観点の趣旨	・世界の歴史を学ぶ意義に気づき、世界史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組むことができる。 ・歴史を学ぶ中で、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚をもって考える態度を身につけている。	・世界の歴史を、地理的条件、日本の歴史などの様々な要素と関連付けて、実証的、多角的、多面的、批判的にに考察し、自分の考えを適切に表現できる。	・世界の歴史を学ぶための諸資料から、有用な情報を適切に読み取り、それらを効果的に歴史の探求に活用することができる。	・古代から現代にいたる世界の歴史の流れ、基本的な知識を身につけている。 ・世界史の枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解できる。
評価方法	・記述の点検（レポート） ・観察（スクーリング） ・課題	・記述の確認及び分析（レポート） ・課題	・記述の確認及び分析（レポート） ・課題	・記述の確認及び分析（レポート） ・課題

・学年末に５段階で評価する。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1範囲	文明と諸地域世界の形成 諸地域世界の交流と再編	・地球と人類のはじまり ・西アジア世界・地中海世界の形成 ・南アジア世界・東南アジア世界の形成 ・東アジア世界・内陸アジア世界の形成 ・イスラム世界の形成と拡大 ・ヨーロッパ世界の形成と変動 ・内陸アジア世界と諸地域世界 ・世界史の扉	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a：世界史を学ぶ意義について考え、様々な歴史的要素や世界史の展開について関心を持ち、主体的に学習に取り組んでいる。 b：古代史の展開、自然環境や文化圏の交流、日常生活について歴史的に考察し、適切に表現できる。 c：古代史の展開、自然環境や文化圏の交流、日常生活についての資料を適切に読み取り、考察に活用することができる。 d：人類の出現から古代文明の発生と中世に至る展開、特色ある地域文化圏の形成と交流のありさまについて理解し、知識が身についている。	・レポート ・ｽｸｰﾘﾝｸﾞ ・課題 ・定期考査
2範囲	諸地域世界の結合と変容	・アジア諸地域世界の繁栄と成熟 ・ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ・産業社会と国民国家の形成 ・世界市場の形成とアジア諸国 ・歴史上の人物について(Person)	○ ○	○	○ ○	○ ○ ○ ○	a：近世以降の世界史の展開や歴史上の人物に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる。 b：近世以降の世界史の展開や歴史上の人物について考察し、適切に表現できている。 c：近世以降の世界史の展開や歴史上の人物についての資料を適切に読み取り、考察に活用することができる。 d：近世以降のアジアの繁栄と、ルネサンスに始まるヨーロッパの近代化、市民革命と産業革命を経たヨーロッパ列強がアジア諸地域に進出していく過程について理解し、知識が身についている。	・レポート ・ｽｸｰﾘﾝｸﾞ ・課題
3範囲	地球世界の形成	・世界の分割 ・二つの世界大戦 ・戦後世界の形成と変容 ・21世紀の課題 ・世界史について(考察)	○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	a：近現代史の展開に関心を持ち、主体的に学習に取り組み、民主的な社会の形成者としての自覚をもって考えることができる。 b：近現代史の展開や現代社会について歴史的に考察し、適切に表現できている。 c：近現代史の展開についての資料を適切に読み取り、考察に活用することができる。 d：19世紀後半の先進資本主義国の帝国主義的進出と、これに対抗するアジア諸地域の民族主義運動、二つの世界大戦と現代史の展開について理解し、知識が身についている。	・レポート ・ｽｸｰﾘﾝｸﾞ ・課題 ・定期考査

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。